

平成30年度 農業後継者特別支援事業実績書

事業主体名 いぶすき観葉植物青年部会

1 目的

指宿市は観葉植物の古くからの産地である。産地規模や販売金額はここ数年横ばいであるが、沖縄等の競合産地が伸びており、若手の生産者を中心に、経営の建て直しを図る気運が高まっている。

後継者や若手の経営者からなる青年部会が、観葉植物生産の先進地であるタイに行き、国内外の需給動向やトレンドを把握し、有望品目の掘り起こしを行う。また、観葉植物の品目別の生態や管理技術についての知識を深め、今後の栽培活動に活かす。

2 実施状況

(1) タイ苗鉢物市場における市場調査

サンデーマーケットにおいて市場調査を行った。東京ドーム2個分の広大な面積に店舗が多数並んでおり、一日では全ての店舗を見て回る時間が無かった。

各店舗は多肉植物専門や吊り物専門、シダ専門など専門性が強く、品揃えもかなり豊富であった。

コウモリランが減少し、フィカス類（ゴム系）が増加していた。全体的には多肉植物やティランジアなどが多くを占め、近年のトレンドがほぼ継続していると見られる。



タイ苗鉢物市場

(2) 有望品目の調査と種苗の購入

突然変異や斑入りなどの珍品も多かった。その中で3品目を選定し、種苗（各100本、計300本）を購入した。

(3) 現地生産者の管理技術、植物の特性等の学習

バンコク郊外の観葉鉢物の生産者5戸のほ場を視察した。どの施設も清潔に管理され、鉢土の排水をよくするために波板に置かれていた。

気温が高いため、ハウスを常時開放でき、湿度の影響が少ない。（指宿のように冬期の閉め込みによる過湿の心配が無い。）

苗の生育が均一で、鉢上げ後の鉢も生育ムラがほとんど見られなかった。育苗段階からの栽培技術が重要であることを実感した。



現地生産者施設ほ場での研修

(4) 有望品目の試験栽培

購入した有望品目を各自試験的に栽培を行っている。出荷までは1年以上かかるため、今後も注意深く観察し、出荷まで養生したい。



有望品目（左からフィカスアガレア斑入り、1ツカ黄斑入り、1ツカ白斑入り）

3 今後の課題、取り組み

(1) 有望品目の出荷・販売と市場評価

(2) 有望品目の増殖